

卒業生代表答辞



ひばりのさえざりが聞こえ、うらかな春の訪れを感じるころとなりました。

本日は私たちのためにこのように晴れやかな式を挙げてくださり、心より御礼申し上げます。学院長の大河原先生、学長の瀬口先生をはじめ教職員の皆様、そして在校生のみなさんから、御心のこもったお祝いと励ましのお言葉を頂き、卒業生一同感謝の念で一杯です。

卒業を迎えた今、四年あるいは六年前の春、期待と不安に胸を膨らませて入学したのも、ついこの間のこのように感じます。思い起こせば、私たちは学生生活の中で多くの貴重な経験をさせていただきました。親睦を深め合った丹嶺学苑の宿泊研修、仲間と団結して、達成感を味わった体育祭や文化祭。どれも思い出深いものです。また、総合大学ならではの、学科をこえて受講できる授業もあり、視野が広がると同時に、専門領域の奥深さを知ることにもつながりました。

私は、相手の生きづらさに寄り添った支援ができる音楽療法士になりたいと思い、入学当初から、自分に限界を設けることなく何事にも積極的に取り組もうと決意していました。そして、授業や実習の他にも、ボランティアなど地域貢献にかかわる課外活動に積極的に取り組みました。これらの経験から、音楽を通して人と感動を味わい、互いに成長できる素晴らしい出会いの機会を得ることができました。このような恵まれた環境の中で貴重な学びを得たことを誇りに思います。

そして、学生生活において特に大きかったのは、同じ目標に向かって共に学んできた仲間存在です。互いの不安や悩みに共感し、励ましあうことにより、数々の課題を乗り越えることができました。

特に、これまでの集大成ともいえる資格試験の勉強中は、最善を尽くして乗り越えたいと思う一方で、なかなか先のみえない不安に気持ちがくじけそうになることもありました。そのような時にも、たゆまぬ努力を続ける仲間の姿に刺激を受け、幾度となく心を奮立たせることができました。このように充実した学生生活を全うできたのは、共通の目標に向かい切磋琢磨し合った仲間存在や、先生方からの励ましとご指導があったからです。心から感謝いたします。学生生活におけるこれらの出会いは、私たちにとって大きな財産です。

本日をもって卒業する私たちは、互いに夢を追って進むべき道への第一歩を踏み出します。多くの時間を共有した仲間、愛情を持って接していただいた先生方との別れは辛いものですが、大学で培った学びや繋がりを礎として社会に貢献できる人材となるよう、今後も精進して参ります。

今日まで手厚くご指導、ご支援いただきました先生方と職員の皆様、苦楽を共に過ごした仲間、どんなときも見守り支えてくれた家族に、改めてお礼申し上げます。

最後に、今後の武庫川女子大学の更なる御発展と、皆様の健やかな日々を祈念し、卒業生代表の答辞といたします。

令和四年三月一九日

武庫川女子大学 生活環境学部／音楽学部／薬学部／看護学部
卒業生総代 音楽学部 応用音楽学科
増田 茜